

# だしパック生産 自動化加速 かね七、健康志向で需要増

2023.01.05 22:29



## ■包装ライン整備

食品メーカーのかね七（富山市水橋畠等、石黒勝久社長）は、だしパックの生産ラインの自動化を進めている。健康志向の高まりや利便性が支持を集め、だしパック市場は年々拡大。同社の販売量も10年前と比べて約2.5倍に増えており、包装作業の自動化により需要増に対応する。（相川有希美）

かね七は1884年創業。煮干しや削り節、総菜をはじめ、千種類を超える多品種生産が特徴で、かつお節や昆布などを混ぜ合わせただしパックが主力商品だ。全国の量販店で扱われ、この10年間の販売量は毎年2～3割の伸びを見せている。



生産体制を強化するため、かね七は2017年に工場を増設。昨年秋には外袋の自動包装ラインを新たに導入し、手作業で行っていた包装作業を機械化した。今後も増産に向け、さらなる設備投資を検討する。

だしパック以外の生産ラインでも機械化を進めており、昨年秋にかつお節パックの検査を担う自動装置を導入した。ロボットアームを使い、パックを検査機械に自動投入する仕組みだ。

検査装置はタナカエンジニアリング（富山市向新庄町）の製品を採用した。これまで県外メーカー製を使っていたが、地元企業に切り替えることで相談やトラブルへの迅速な対応が可能になった。親会社の田中精密工業など自動車部品メーカーとの取引が多いタナカエンジニアリングにとっても、初の食品メーカー向けの装置開発となり、今回の取引を足がかりに幅広い業種への提案を強化したい考えだ。

かね七の石黒社長は「自動化を進め、多くの方に満足してもらえる商品作りにつなげたい」と話した。